

北海道博報堂「新どさんご研究所」が 新商品開発 北海道の人やアイデアを結びつけ新しい価値を掘り起こす 「新ど研 モノゴトFACTORY」を発足

この度、株式会社北海道博報堂「新どさんご研究所（所長：山岸 浩之）は、北海道の魅力を掘り起こす新しい商品開発のプロジェクト「新ど研 モノゴトFACTORY」を発足しました。



新どさんご研究所では「未来に向けて活動している北海道の人たち」を“新どさんご”と呼び、これからの北海道を支え、創造していく新どさんごの可能性を見出だそう、という取組を行っています。

新どさんご研究所の今回の新プロジェクト「新ど研 モノゴトFACTORY」では、北海道の手つかずの可能性（「人と人、素材と技術、メディアとアイデア」など）を掛け合わせることで、北海道のモノやコトに新しい価値を生み出し発信する取組を行っていきます。



北海道には手つかずの可能性が、まだゴロゴロある。
そのひとつひとつを掛け合わせて、新しい未来の種をつくれなにか。
新ど研はそう考えました。
人と人、素材と技術、メディアとアイデア。
これまで結びつくことのなかった2つのモノゴトが出会うと、
そこにはきっと新しい価値が生まれる。
点と点をつなぐことで、もっと大きな未来を描ける。
北海道といっしょに、北海道の新しいモノゴトをつくる。
新ど研モノゴトプロジェクト、はじまります。

第一弾は、北海道今金町の若手生産者「仁木農園」と京都の伝統的な漬物技術を合わせたコラボ商品「アスパラ一本漬」「アスパラ 根もと漬」（8月24日発売）。今金に流れる清流・後志利別川の水で育った良質なアスパラを、京都で培われてきた伝統の技術で、おいしい漬物に仕上げました。

「新ど研 モノゴトFACTORY」では、北海道内の人や技術、アイデアを結びつけることで、今後もさまざまなモノやコトの開発を進めてまいります。



一本漬パッケージ(それぞれ左)、
根もと漬パッケージ(それぞれ右)



一本漬／醤油味（上）
根もと漬／醤油味（下）

【新どさんご研究所(新ど研)概要】

北海道民の今の姿をデータで明らかにしながら、「一歩先の北海道民＝新どさんご」と定義して、その変化を予測・提言する(株)北海道博報堂が設立した専門組織。

所長：山岸 浩之 <プロフィール> 2014年北海道博報堂入社。コミュニケーション戦略局長兼マーケティング部長として、北海道の様々なクライアントの戦略立案やリサーチを担当。

お問い合わせ先：

○株式会社北海道博報堂 コミュニケーション戦略局 マーケティング部

新どさんご研究所 広報担当：吉川 電話 011-251-0178 shindoken@hakuhodo.co.jp